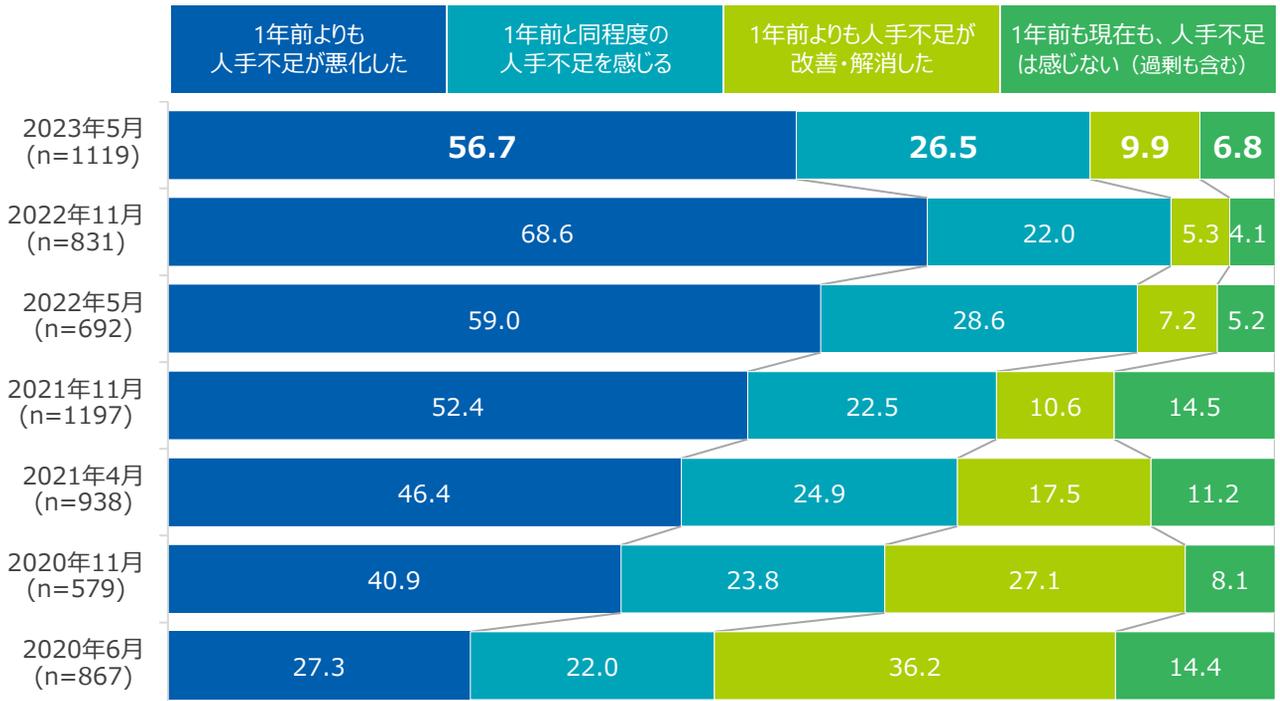


ジョブズコミュニティレポート 2023年6月号

経済活動の再開を受け、人手不足に直面するto C企業が増加 —サービス・小売・飲食業「1年前よりも人手不足が悪化した」6割超—

Q 1年前に比べて人手不足を感じますか？

(%)



訪日外国人の増加や新型コロナウイルスの5類引き下げなど、経済活動がコロナ禍前の状態に戻つつあるなか、企業の経営者や採用担当者に1年前と比べた人手不足感を聞きました。

全体では「1年前よりも人手不足が悪化した」が、コロナ禍初期の2020年6月27.3%を底に増加してきましたが、今回はじめて減少に転じ、56.7%になりました。人手不足が改善・解消したというよりは、比較対象の1年前（2022年5月）ですでにコロナ影響が弱まり、人手不足が顕在化していたことが、結果に影響したと考えられます。実際に、足元の有効求人倍率（2023年4月/季節調整値）は1.32倍で、前年同月1.24倍から0.08ポイント上昇し、企業の採用ニーズは増えています。

業種別では、人手不足の傾向を以下3つに分類できました。

① サービス業、小売業、飲食業：「1年前よりも人手不足が悪化した」が6割を超えました。また、2021年4月から2022年5月にかけて、「1年前よりも人手不足が悪化した」「1年前と同程度の人手不足を感じる」の合計割合（以下 不足合計）が大きく伸長、今回も状況は大きく変わりません。to Cの企業が多く含まれるため、営業自粛の解除を受け、コロナ禍で離れた人手を取り戻そうとしている一方、思うように採用が進んでいないことが想定されます。

② 医療・福祉関連業、運輸業、人材サービス業、情報通信業：①同様、2021年4月から2022年5月にかけて不足合計が伸長しましたが、今回でいずれも減少。人手不足が比較的改善・解消に向かったことが分かります。

③ 製造業：不足合計が継続的に減少しています。他業種に比べてコロナ影響が少なかったため、長期的に採用活動をストップすることなく、計画的に採用できていたことなどが考えられます。

今後、to C業種の回復により、人材採用はより困難になることが予想されます。これまで採用できていた人物タイプや募集内容などに固執せず、これまで採用したことのない人物タイプでも可能性があるのか、求職者の志向にマッチした業務内容や働き方になっているのかなどを柔軟に検討・改善し続けることが重要ではないでしょうか。

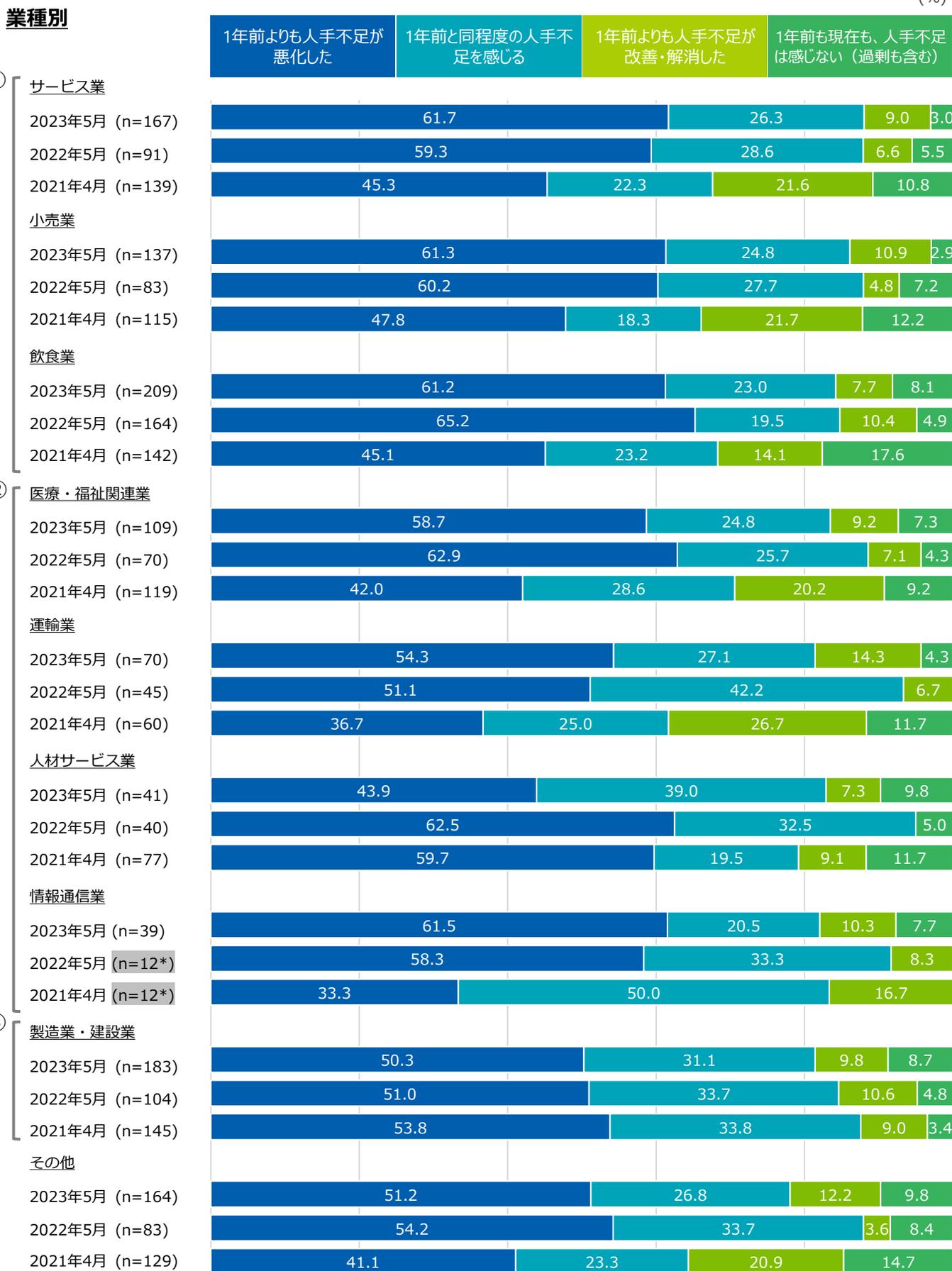
※レポート内の数値は、集計結果の小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100にならない場合があります

- アンケート実施期間：2023年5月19日～5月25日
- 有効回答数：1,119人
- 対象：人材インフォメールマガジン会員

● 本レポートに関するお問い合わせ先
株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター jbrc@r.recruit.co.jp

● その他のアンケート結果はこちらから
https://jbrc.recruit.co.jp/tag/tag_38.html

(%)



*回答数nが30未満の場合は参考値として掲載

(%)

